

・乳児の救命処置

①人工呼吸の重要性

乳児の場合は、成人に比べて呼吸が悪くなったことが原因で心停止に至ることが多いため、胸骨圧迫に人工呼吸もあわせた心肺蘇生ができるようになることが望ましいと考えられます。

②救命処置の注意点

救命処置は、小児にも成人との違いをできるだけ気にせずに行うことができるよう工夫されています。子どもたちの命に危険が迫っているときは、年齢を気にすることなく心肺蘇生を行ってください。しかし、1歳未満の乳児には、体の大きさが違うことなどの理由から、さらに適した救命処置のやり方があります。乳児に行う救命処置で特に注意するのは次の点です。

- ①胸骨圧迫の方法
- ②人工呼吸の方法
- ③AEDの使い方
- ④気道異物の除去方法

③乳児の救命処置の流れと手順

(1)乳児に対する心肺蘇生とAEDの使用

①安全を確認する

○近寄る前に周囲の安全を確認し、状況にあわせて自らの安全を確保してから近付きます。

②反応(意識)を確認する

○声をかけながら反応があるかないかを確認します。このとき、足の裏を刺激することも有効です。

○反応がなければ、大きな声で助けを求めます。

③119番通報と協力者への依頼

○協力者が駆けつけたら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。

ポイント

●協力者が誰もおらず、救助者が一人の場合には、次の手順に移る前に、まずは自分で119番通報をしてください。また、すぐ近くにAEDがあることがわかっている場合には、AEDを取りに行ってください。

④呼吸の確認

○胸や腹部の上がり下がりを見て、「普段どおりの呼吸」をしているか判断します。

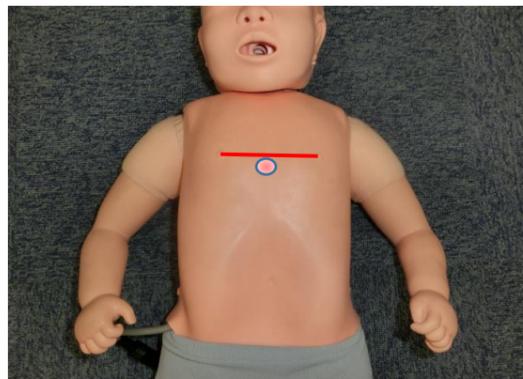
⑤胸骨圧迫

○圧迫の位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸骨の下半分です。(図1)

○胸骨圧迫は指2本で行います。(図2)

○1分間に100～120回のテンポで連続して絶え間なく圧迫します。

○圧迫の強さ(深さ)は、胸の厚さの約3分の1を目安として、十分に沈む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫します。乳児だからといって、こわごわと弱く圧迫したのでは効果が得られません。



乳児の胸骨圧迫位置(図1)



乳児への胸骨圧迫(図2)

⑥人工呼吸

- 胸骨圧迫を30回連続して行った後、気道確保を実施して人工呼吸を2回行います。
- ・気道確保の際に、極端に頭を後屈させるとかえって空気の通り道を塞ぐこととなりますので気を付けましょう。
- ・乳児の大きさでは、口対口人工呼吸を実施することが難しい場合があります。この場合は、乳児の口と鼻を同時に自分の口で覆う口対口鼻人工呼吸を行います。(図3)
- ・胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行う組み合わせを救急隊員と交代するまで絶え間なく続けます。



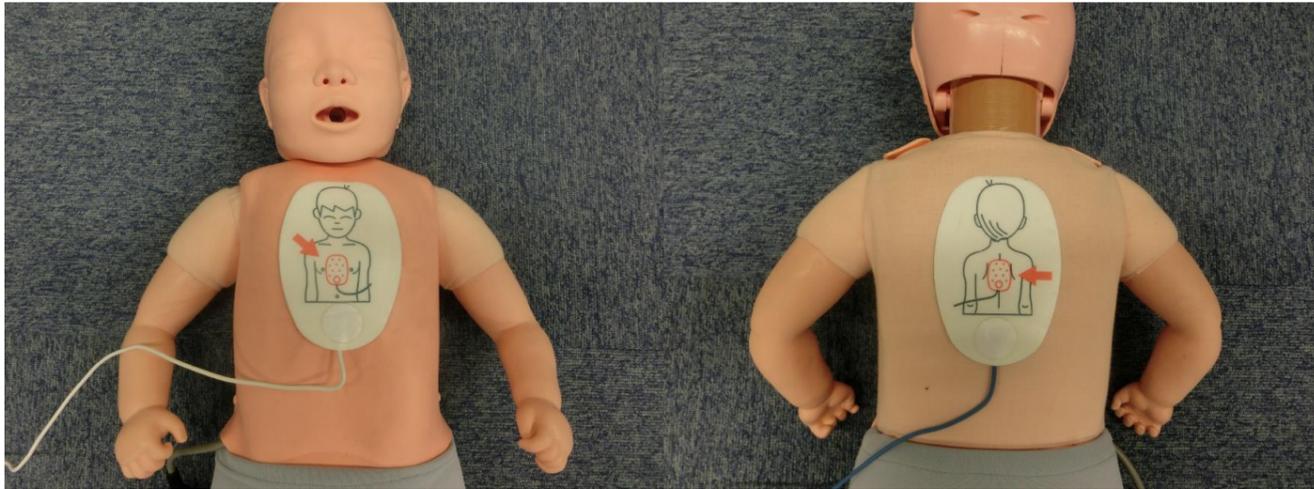
乳児への人工呼吸(口対口鼻人工呼吸)(図3)

⑦AEDの使用

- 乳児にも、AEDを使用します。
- ・AED本体に成人用と小児用の2種類の電極パッドが入っている場合や成人用モードと小児用モードの切り替えがある場合には、小児用の電極パッドや小児用モードで使用してください。AED本体に小児用の電極パッド入っていない場合や成人用モードと小児用モードの切り替えがない場合には入っている電極パッドを使用してください。
- ・電極パッドを貼る位置は、電極パッドに表示されている絵に従います。
- ・小児用の電極パッドがなく、成人用の電極パッドを使用する際にはパッド同士が接触しないように工夫が必要です。
- 電気ショックを行ったら、直ちに胸骨圧迫を再開します。

参考

小児用の電極パッドの中には、胸と背中に貼るタイプのももあります。(図4)



小児用の電極パッド(胸と背中に貼るタイプ)を貼り付ける位置(図4)

⑧AEDの使用と心肺蘇生の継続

- 以後は、心肺蘇生とAED使用の手順を、約2分間おきに救急隊員と交代するまで繰り返します。